

# 世襲戦隊カゾクマンⅢ

作／田村孝裕

## 登場人物

一郎 (父レッド)

多津子 (母ピンク)

大輝 (兄ブルー)

紗江 (妹イエロー)

正則 (婿グリーン)

詩織 (大輝の妻)

千代 (先代グリーン)

男前男

イーゲン

ミドラー

前回の物語から2年……。

手術着に身を包んだ一郎が手足を縛られ、気を失った状態で座っている。

一郎 (うなされるように目を覚まし) ハッ……ここはどこだ……?!

高笑いが聞こえてくる……。

ミドラー (声) ようやく目を覚ましたか。レッド!

一郎 その声は……ミドラー!!

一郎は思わず立ち上がるも、ぎっくり腰に。  
そこへ、ミドラーが登場。

ミドラー 戦いの最中(さなか)に腰痛の手術とは……呑気なものよ。

一郎 麻酔が効いてる間に襲ったんだな。随分と卑怯な真似をしてくれるじゃないか。

ミドラー 悪魔の辞書に、卑怯などという文字はない。

一郎 一体、何をする気だ?!

ミドラー そう慌てるでない。

一郎 本来ならば麻酔の効いているうちに仕留められたはずだ!俺を生かしておくとは何事だ?!

ミドラー 慌てるな。今から説明する。

一郎 (聞いてない) そうか!わかったぞ!俺を人質にするつもりなんだな!そうだろ?!ミドラー!

ミドラー 説明するから話を聞け!

一郎 (聞いてない) 前回は大翔を、その前は詩織ちゃんをお前は人質に取った!その作戦が何度も通用すると思うなよ!

ミドラー レッド落ち着け!私の話を聞くのだ!

一郎 (聞いてない) そもそも俺を人質に取ったのが失敗だ!カゾクマンたる者、人質に取られた場合の覚悟は出来ているんだ!

ミドラー 人質ではない!勝手に勘違いするな!

一郎 (聞いてない) レッドとしての寿命がとうに過ぎたのはわかって

る！腰痛のせいでみんなには迷惑をかけた！俺はダメな人間だ！

ミドラー パニックを起こすな！レッド！

一郎 人質に取られ、またみんなに迷惑をかけるわけにはいかない！自衛隊や警察にも迷惑をかけるわけにはいかないんだ！

ミドラー だから人質じゃないと言ってるんだ！聞くん！人の話を！

一郎 (聞いてない) お前の人質に取られるくらいなら……俺はこの場で舌を噛み切る！

ミドラー 早まるなレッド！死ぬんじゃない！

一郎 みんな！俺はこの家族に生まれて幸せだった！カゾクマンは永久に不滅だ！

ミドラー よせ！レッド！

一郎 (舌を噛む)

ミドラー (思わず目を背ける)

一郎 アイタタタタ。

ミドラー へっ？

一郎 くそ……こんなに痛いとは……こうなったら、何か別の手段で、

ミドラー 馬鹿者！人の話を聞け！人質じゃないと言っておるだろう！

一郎 えっ？人質じゃない？

ミドラー そうだ！お前を人質にするためにさらったのではない！

一郎 何だよ。早く言ってくれよ。

ミドラー 言っていたのだ！ずっと！お前が勝手にパニックだったのだ！

一郎 人質じゃないなら、どうして俺をさらった？

ミドラー 貴様には人質よりも辛い人生を背負わせてやろう。

一郎 どういう意味だ？！

ミドラー レッド！今からお前を改造人間にする！

一郎 改造人間だと？！

ミドラー その生涯を、このミドラー様に捧げるのだ！

一郎 ……そんなことは絶対にさせない！

ミドラー どうやって？

一郎 ……。

ミドラー 手足を縛られた状態で、どう私に抵抗するというのだ？

一郎 こうなったら、息を止めて！

一郎は自らの息を止める。

ミドラー 無駄だ！（と一郎の脇をくすぐり）こちよこちよこちよこちよ！

一郎 （爆笑）やめろ！やめろってば！くすぐりたいよ！

ミドラー （やめる）

一郎 汚いぞ！ミドラー！

ミドラー 無駄な抵抗はよせ！レッド！

一郎 お前の配下になるくらいなら、いっそのこの場で！

と、一郎はまた息を止める。

ミドラー 無駄だと言っているのがわからんのか！（また脇をくすぐり）こちよ

こちよこちよこちよ！

一郎 （爆笑）やめてくれ！俺はくすぐりに弱いんだよ！ごめんなさい！

もう息は止めませんから！

ミドラー （やめる）

一郎 くそー！どうすることもできない！

ミドラー 観念しろ！どの道、貴様は改造人間になるしかないのだ！

ミドラーは置いてあった、おどろおどろしいヘッドセットを

一郎に装着。

一郎 ……やめろ……やめてくれ……。

ミドラー さらばだ！カゾクマンレッド！

幕が降りる。

一郎のシルエット。一郎の身体に電流が走る映像。

一郎の叫び声こだまする。

千代 （声）多津子さん大変！一郎ちゃんがミドラーにさらわれた！

多津子 （声）なんですって？！

千代 （声）カゾクマン諸君！今すぐ板橋中央病院に出撃よ！

皆 (声) はっ！

カゾクマンスーツを装着した多津子、大輝、紗江、正則、詩織  
が一郎を探している。  
イーゲンのテーマ。

詩織 この……威厳……。

正則 こんな威厳を放つ怪人は、あいつしかいない！

イーゲン登場。

大輝 出たな！イーゲン！

イーゲン 久しぶりだな。バカブルー！

紗江 どうして?! あんたはうちの人がやっつけたはずでしょ?!

イーゲン 油断したまでだ。ブスイエロー!

正則 何度やっても結果は同じだ!

イーゲン 2年前の俺様とはわけが違うぞ。デブグリーン!

詩織 お義父さんは?! お義父さんは今どこにいるの?!

イーゲン そんなに知りたければ俺様を倒してみる。ガキピンク!

多津子 どうせお父さんを人質にするつも!

イーゲン (遮って) 黙れ! クソババア!

多津子 クソババア?!

紗江 なんて、シンプルな悪口……。

多津子 うるさいわね! ヒゲゴリラ!

紗江 なんて、低俗な言い返し……。

イーゲン ピンクが二人とはややこしい。還暦のお前はクソババアで十分だ。

多津子 失礼ね! まだ59(歳)よ!

イーゲン 3日後には60(歳)だ。

多津子 あたしの誕生日をよく知ってるじゃない。なんだかんだ言ってあたしのファンなんじゃないの?

イーゲン バカも休み休み言え。貴様はピンクのちゃんちゃんこでも着て、大人しくしてろ。

多津子 もう許さない! (飛びかかろうとする)

大輝 母さん！挑発に乗るな！まずは親父を助けるのが先決だ！  
多津 (堪えて) くっ……。  
イーゲン 助けられるものなら助けてみる。お前ら！かかれ！

幕が降りる。  
ブルーが残り、ジョッカーと対決。

大輝 ここは俺に任せろ！（ジョッカーが登場して）出たなジョッカー！  
ブルーイリユージュオン！

ブルー、ジョッカーたちをなぎ倒すと、

大輝 紗江！そっちを頼む！

ブルーと入れ違いにイエロー登場。

紗江 任せといて！

しかしイエロー、不甲斐ないバトル。

紗江 どっすんイエロー！

必殺技を出すもジョッカーは倒されず、反撃を食らう。  
慌ててグリーンが駆けつけて、

正則 どうした？！紗江！  
紗江 (冷たく) さっさと助けなさいよ！  
正則 (ショックだが) ふえーるグリーン！

グリーン、ジョッカーたちをなぎ倒し、

正則 大丈夫か？！紗江！  
紗江 (おざなり) どうも……。

正則

(ショックだが) さあ！こっちだ！

紗江と正則、その場を離れる。

幕が上がる。

一郎の様子が苦しそう。

その一郎に向かいデジタルビデオカメラをセッティングして  
いるミドラー。

ミドラー 普通の人間なら瞬時にして気絶する。その精神力だけは褒めてつか  
わそう。

一郎 ……何を……する気だ……？

ミドラー 改造人間になった貴様を撮影し、全世界に配信する。

一郎 配信だと……？機械音痴のミドラーが……？

ミドラー 私はこの2年、パソコン教室に通い詰めた。今ではプログラミングも  
可能だぞ。

一郎 そうか……だから2年もの間、潜伏していたんだな。

ミドラー 明日、ユーチューブにミドラーチャンネルを開設する。そこで、貴様  
が改造人間になりゆく様をアップロードする予定だ。

一郎 ミドラー。忠告しておくがユーチューブの道は険しいぞ。

ミドラー なんだと？

一郎 この2年、ミドラーが現れなかったおかげでうちの家計は火の車だ。  
カゾクマンのユーチューブを始めたものの、再生回数は伸びなくな  
ってな。

ミドラー 貴様たちのユーチューブがつまらなかつただけだろう。

一郎 そうかもしれない。だがそれ以上に、世間は俺たちの戦いに興味を失  
ってしまったんだ。

ミドラー だからだ！だからこそ、お前が改造人間になる姿をユーチューブに  
あげ、もう一度世間の注目を引き寄せる！世界初の改造人間動画  
だ！

今一度、ヘッドセットを装着するミドラー。

一郎 ……やめる……やめてくれ……。

ミドラー さらばだ！カゾクマンレッド！

幕が降りる。

一郎のシルエット。一郎の身体に電流が走る映像。  
一郎の叫び声がこだますると、程なく「シャキーン！」という  
効果音とともに、誰かが倒されるSE。

ミドラー ……何、奴……。

男 (声) ご無沙汰しています。

一郎 (声) ……お前は……？！

男 (声) 一郎さん。時間がありません。早くカゾクマンスーツに着替え  
てここを脱出するのです！

幕が上がる。

イーゲンと対峙している母ピンクと嫁ピンク。

詩織 お義母さん！イーゲンは私に任せてお義父さんを探してください！

多津子 詩織ちゃん！一人で大丈夫？！

詩織 はい！私は彼の弱点を知っています。

多津子 弱点？

詩織 イーゲンは子守唄を歌うと眠くなる。そこを付きます！

イーゲン 望むところだ。あの時の借りを返してやる。

多津子 ありがとう、詩織ちゃん！あとはよろしくね！

多津子はその場を離れる。

詩織 さあ！かかってらっしゃい！

イーゲン 小賢しい！俺様にタイマンを挑むとは……。

攻撃態勢のイーゲン。  
すぐさま子守唄を歌う詩織。

イーゲン (眠くなる)

詩織　イーゲン！覚悟なさい！

イーゲンは詩織の攻撃を防御し、栄養ドリンクを飲んで眠気を覚ます。

詩織　それは……眠眠打破！

イーゲン　俺様が同じ手を食らうわけがなかるう！覚悟しろ！

イーゲンの攻撃。詩織は防戦一方。しかし致命傷は喰らわず、

イーゲン　やるな、詩織。合格だ。

詩織　合格……？

そこへブルー、イエロー、グリーンが駆けつける。

大輝　詩織。もう大丈夫だ。

イーゲン　フン。貴様らが束になったところで俺様に叶うわけがない。

大輝　その台詞、すぐに後悔させてやる！

束になってかかるカゾクマン。しかし圧倒的に強いイーゲン。

紗江　つ、強い……。

正則　2年前よりも、圧倒的に強くなっている……。

イーゲン　死ね！

戦闘機の音が遠くから聞こえてくる。

正則　自衛隊！！

大輝　いや！あれは自衛隊の戦闘機じゃない！

イーゲン　邪魔者が入ったようだな。まあいい。すでに目的は達成された。

紗江　目的？！一体どうしたことよ？！

イーゲン　お楽しみはこれからだ。

イーゲンは不敵な笑みを浮かべ去っていく。  
戦闘機の轟音とともに「カゾクマンのテーマ」。  
5人のシルエットが映し出されると幕が上がる。

一郎 レッド！

多津子 ピンク！

大輝 ブルー！

紗江 イエロー！

正則 グリーン！

一郎 五人揃って！せーの。

皆 (決めポーズ) カゾクマン！

皆 家族って何だ

世襲って何だ

それは繋がるってことさ

守りつづけるってことさ

世襲戦隊カゾクマン

一郎 赤い炬燵が家族を暖め

大輝 青い湯船が身体を癒す

紗江 黄色いカレーがお腹を満たし

正則 緑の野菜でバランス取るのさ

多津子 (台詞) あとは桃色の愛があれば……大丈夫

皆 家族って何だ

世襲って何だ

それは育むってことさ

愛しつづけるってことさ

世襲戦隊カゾクマン

溶暗。

数時間後……。

佐久間家の居間。

司令官である千代がひとり、お茶と柿の種をつまんでいる。

玄関扉の開く音。

気落ちして帰って来るカゾクマンを出迎える千代。

千代　ご苦労さま……。

正則　司令官……。

大輝　司令官に敬礼！

多津子　お千代さああん！！！！

敬礼する間もなく、千代に抱きつく多津子。号泣している。

千代　多津子さん大丈夫。一郎ちゃんは必ず生きてる。そう信じましょう。

多津子　うん……そうだよね……。　（千代から離れる）

正則　あの、司令官。

千代　司令官はよろしでしょう。今は元グリーン、いや、一郎ちゃんの家族と

してここに來てるんだから。

多津子　お千代さああん！！！！

千代に抱きつく多津子。　　またも号泣。

千代　多津子さん大丈夫。一郎ちゃんは必ず生きてる。そう信じましょう。

多津子　うん……そうだよね……。　（千代から離れる）

正則　お千代さん。何か、新しい情報は……？

千代　（黙って首を振る）

正則　そうですか……。

千代　でも光明はある。警察が総力を挙げて一郎ちゃんの捜索に乗り出し

てるから。

多津子　お千代さああん！！！！

多津子を制する千代。　　今度は言い聞かせるように。

千代 多津子さん大丈夫。一郎ちゃんは必ず生きてる。そう信じましょう。  
多津子 お千代さあああん!!!! (結局抱きつき)

千代 (面倒だが) ……。

大輝 警察が捜査だなんて、一体どういう風の吹きまわしだ？

紗江 今まで何の協力もしてこなかったくせに。

千代 わからない。でも拉致の情報が入った途端、警察は東京都全域に特殊部隊を緊急配備したのよ。

多津子の泣き声で、千代の言葉がよく聞こえず……。

大輝 え？なんて？

紗江 (千代から優しく多津子を引き離し) 母さん。そろそろ泣きやもうか。  
今、大事な所だから。

多津子は千代から離れ、ティッシュで鼻をかむ。

大輝 おばちゃん、もう一度、説明してくれ。

千代 警察はね、一郎ちゃん拉致の情報が入った途端、東京都全域に特殊部隊を緊急配備したのよ。

正則 それって、大統領の来日の影響じゃ……。

千代 私たちもそう睨んでる。警察と自衛隊は来日を前にミドラーを仕留めるつもりなのよ。

正則 そうか。それで自衛隊の到着があんなに早かったんですね。

大輝 いや違う。あれは自衛隊の戦闘機じゃないはずだ。

千代 大輝の言う通りよ。あれはアメリカ軍の戦闘機……。

大輝 アメリカ軍だと?!

千代 噂では対ミドラー用のミサイルを開発したって話よ。

大輝 どういうことだ？各国の軍隊及び防衛機関は、俺たち地球防衛軍と連携するはずじゃ……。

千代 今、アメリカの影響力は昔ほどではなくなってる。自国のミサイルでミドラーを倒し、世界にアメリカの力を誇示するつもりよ。

大輝 手柄を、横取りするつもりか……。

千代 そういう見方もできるわね……日本は国の威信を保つために、アメ

リカは世界に力を誇示するために、ミドラーを仕留めようとしている。

大輝 そんなことは絶対にさせない……ミドラーと最前線で戦ってきたのは、俺たちカゾクマンだ！

多津子 手柄なんてどうでもいいわよ。お父さんさえ生きていてくれれば。

千代 多津子さん大丈夫。一郎ちゃんは必ず生きてる。ミドラー一族と40

年以上も闘ってきたのよ。そんなヤワな一郎ちゃんじゃないわ。

多津子 お千代さあああん！！！！

千代はスツと詩織を差し出す。

それには気付かず詩織に抱きつく多津子。

千代 ごめんね。詩織ちゃん。

詩織 いえ……。

千代 みんなよく聞いて。ミドラー包囲網はすでにできあがっている。この3日間が勝負よ。必ずや一郎ちゃんを救い出し、ミドラーとも決着をつける！

紗江 ……わっ！なんか鳥肌立ってきちゃった……。

詩織 あの、お千代さん。そろそろ幼稚園に大翔を迎えに行く時間なんですけど。

正則 倫太郎も迎えに行った方がいいんじゃない？一人で下校させるのは危険すぎるよ。

紗江 そうね。悪いけど迎えに行つて。

正則 わかった……。

千代 待つて。子供たちをこの家に住まわせるのは危険よ。しばらくは地球防衛軍が責任を持って預かるわ。

紗江 確かに。迎えに行かなくていいわ。

正則 わかった……。

大輝 おばちゃん。子供たちのこと、よろしくお願いします。

千代 わかった。詩織ちゃん、そういうことだから。多津子さんにもう少しだけ胸を貸してあげて。

詩織 (面倒だが) はい……。

ここへ玄関扉の開く音。

一郎  
多津子  
（声）ただいま。  
お父さん？！

全員が玄関へ出迎える。手厚い歓迎。そして安堵。  
皆の興奮が治らない。

一郎  
多津子  
（腰を押さえ）痛い！痛いよ！痛いってば！  
ごめんねお父さん！大丈夫？！  
ああ……ちよつと、マッサージチェアに座らせてくれ。

大輝と正則が一郎に肩を貸し、座らせる。

千代  
紗江  
大輝  
一郎  
正則  
一郎  
詩織  
一郎  
詩織  
一郎  
多津子  
一郎  
千代  
千代  
一郎  
一郎  
千代  
紗江  
一郎  
千代  
千代  
一郎  
多津子  
一郎  
（涙ぐみ）よかったわ……あたしてつきり、死んだものかと……。  
えっ？さつき「絶対に生きてる」って……。  
一体、どこに連れ去られたんだ？  
中央病院の近くだよ。  
そこがミドラーのアジトってことですか？  
いや。あそこは空き家だ。一時的に身を潜めるための家だろう。  
ミドラーはお義父さんを入質にしようとしてたんですか？  
そうじゃない。俺を、改造人間にしようとしてたんだ。  
改造人間？！  
もしかしたら、今頃は怪人になって皆を襲っていたかもしれない。  
お父さん、怪人にされるところだったの？  
正直、危なかったよ。命から逃げてきたんだ。  
さすが一郎ちゃんね。絶対に生きて帰ってくると思っていたわ。  
さつきから、どちななのよ、おばちゃん。  
情けない話だが、俺一人だったらとっくに怪人にされていたよ。  
？？？どうということ？？  
俺を、救ってくれた男がいたんだ。  
えっ……。  
暗がりによく見えなかったんだが……あの声はおそらく、ヤツに間

違いない……。

多津子 一体、誰なの……。

一郎 その男の名は……えーっと……あのー……ど忘れしちゃった。

紗江 なんなのよ！肝心な所で！

一郎 なんだっけ？あいつだよ。ほら。いっつも格好つけてる……。

詩織 もしかして、男前男ですか……？

一郎 そうだ！怪人、男前男！

多津子 あいつ、まだ生きてたのね！

千代 男前男がミドラーを裏切ったっていうの？！

一郎 わからない。でも、もしそうだとしたら、ミドラーたちの怪人は手薄

だ。俺を怪人にしようとしたのも合点が行く。

千代 すぐに本部に戻って調査を開始するわ。何かわかったらすぐに連絡

するから。

皆 (ポーズ) ハッ！

そそくさと家を後にする千代。

大輝 あいつがミドラーを裏切るとは到底思えないがな……。

正則 でもお義父さんの推測がもし当たってれば、今が絶好のチャンス

ですよ。

多津子 しばらくは忙しくなりそうね。

紗江 これでようやくアコムにも行かなくて済む。

多津子 とにかく今日は休みましょう。司令官の指示が出るまで。

大輝 そうだな。よし、着替えよう。

多津子は寝室へ。大輝、紗江、正則は2階の部屋へと去る。

紗江と正則はどこことなく不穏な空気で……。

詩織は、その場に居残ると、

詩織 ……生きていたんですね。男前男。

一郎 まだ、そうと決まったわけじゃないけどね。でもあの声は多分、男前

男だと思う。

詩織 そうですか……。

思わず、目頭が熱くなる詩織。

一郎 え？泣いてるの？詩織ちゃん。

詩織 2年前、彼は私をかばったせいで命を落とした。そう思っていましたから……。

一郎 惚れられていたもんね、詩織ちゃん。男前男に。

詩織 私は、男前男に借りがあるんです。カゾクマンの一員として、こんなこと言っではいけないのかもしれないけど……もし彼が生きているなら、私は借りを返したい。

一郎 借りを返すたって……一体どうやって……？

詩織 もしも、男前男がミドラーを裏切っていたとするなら、彼は命を狙われているはず……今度は私が男前を助けてあげたいんです。

一郎 ……優しいんだな。詩織ちゃんは。

詩織 あいつに借りを作りたくないだけです。

一郎 いいよ。詩織ちゃんの好きにすればいいさ。

詩織 ありがとうございます、お義父さん。

と、詩織は着替えに台所へ。

入れ違いに多津子が一郎の部屋着を手に戻ってくる。

そこへ正則も加わる。

多津子 (一郎に) 着替えられる？

一郎 ああ。起こしてくれるか。

正則 手伝います。

多津子と正則が一郎を立たせるとスーツを脱がせようとする。

そこへ着替えた紗江も戻ってくる。

多津子 (紗江に) あんたも手伝って。

三人はやいのやいの揉めながら、一郎を着替えさせる。

一郎 ありがとう。あとは自分やるから。  
多津子 じゃあここに（ズボンを）置いとくわね。  
一郎 ああ。

多津子がマッサージチェアの上にズボンを置く。  
そこへ着替えた大輝が戻ってくる。  
多津子は引き出しから請求書を出して、

多津子 大輝。地球防衛軍に請求書出すから、ジョッカー何体倒したか教えて。  
大輝 俺は19体だよ。

正則 （書いて）ってこと19000円と……正則くんは？  
僕は35体。

多津子 すごいじゃないの。大輝の倍も稼ぐなんて。  
正則 いえいえ。

大輝 倍は大袈裟だろ。掛け算もできないのかよ。  
多津子 どっちにしろ正則くんの方が多いでしょ！間もなくレッドを継ぐ人間が正則くんに負けてどうすんのよ！  
大輝 （悔しい）くっ！

台所から詩織が顔を出し、

詩織 お義母さん、すみません。私は一体も……。  
多津子 仕方ないわよ。詩織ちゃんはイーゲンの相手してたんだから。でもイーゲン倒したら、特別ボーナスが出てましたけどね！

詩織 すみません……。  
一郎 母さん。そんな嫌味言う必要ないだろう。  
多津子 そうやってすぐ詩織ちゃんの肩持つんだから。  
一郎 そんなじゃないよ。

多津子 あたしはね、詩織ちゃんが「イーゲンの弱点を知ってる」って言うから任せたのよ！  
一郎 わかったよ。ごめんって……。  
多津子 いい加減ズボンはきなさいよ。  
一郎 あ、ああ……。

一郎がズボンに手を伸ばす。しかし、落としてしまい……。

多津子 (書きながら) 紗江は？何体？

紗江 ……えーっと……。

多津子 何体倒したのよ？紗江。

紗江 あたしは……。

一郎 母さん。ズボン取ってくれるか。

多津子 はいはい。(ズボンを取りに)

紗江 (ごまかし) ××体よ。

多津子 え、なに？もつとはつきり言ってちょうだい。

紗江 ゼロ、体……。

多津子 (ズボンを忘れ) え、ゼロ?!ゼロって言った？今。

紗江 言った……。

多津子 ゼロってなによ？どういうことよ？

紗江 いやほら、なんせ2年ぶりだからさ、感覚が鈍ってたのよ、きっと。

多津子 ジョッカー一体も倒せないなんて、家計助ける気あんの?!

一郎 大輝。ズボン取ってくれ。

大輝 ああ。(ズボンを取りに)

多津子 兄弟揃ってなにやってんの！一体でも多くジョッカーを倒そうって

気はないわけ?!あんたたちにカゾクマン任せたら、倫太郎や大翔がひもじい思いするしかないじゃない!

大輝 (ズボンを忘れ) さっきから偉そうに!母さんだってゼロじゃないか!

多津子 あたしはお父さん探しに行ってたんだからしようがないでしょ!

大輝 親父を探しながらでも、ジョッカーは倒せたはずだ!

多津子 いたら倒すわよ!母さんはね、あんたたちと違っていつも家計のことが頭にあるんだから!

一郎 紗江。ズボンいいか?

紗江 うん。(ズボンを取りに)

多津子 詩織ちゃんだってそうでしょう?!

詩織 あ、まあ……。

多津子 あんたたちみたいに家計や節約のことなんて考えないで、のうのう

と生きてみたいもんよ！

紗江

(ズボンを忘れ)言つとくけど、のうのうとなんて生きてないから！  
あたしなりに家計のこと考えてるわよ！

多津子

ああ、そう！それなら是非聞かせてもらいたいわね！

紗江

ご飯だってお菓子だって昔ほど食べてない！母さん、気づかない？

2年前に比べてあたし2キロも痩せたのよ！

多津子

2キロ程度で偉そうな顔するんじゃないわよ！

一郎

正則くん、ズボンいいかな？

正則

よく言うよ。節約が理由で痩せたわけじゃないくせに……。

一郎

正則くん？

正則

この際だからはっきり言わせてもらいます。紗江はみんなに黙って  
スナックでアルバイトをしているんです。

多津子

スナックで、バイト？！

正則

最初は家計を助けるためでした。だから僕も黙認していたんです。で  
も最近、そこで知り合ったお客と夜な夜な連絡をとって……。

紗江

まさかあんた、浮気を疑ってるわけ？！

正則

僕はもう見てられないんだ！トレーニングを怠り、男に現を抜かし  
ていく紗江を！

紗江

バカじゃないの？！何みんなに話しちゃってんのよ？！あたしたち  
夫婦で話せば済むことじゃない！

多津子

紗江、落ち着きなさい！

正則

話す暇もなかったじゃないか！昼間はどこかへ出かけていて、夜は  
スナックでバイトして！

大輝

正則さんも冷静になるんだ！

気を利かせズボンを取った詩織。

すると突然、一郎が詩織の首を絞める。

詩織

?!

一郎

ズボンを取れと言っただろう。

詩織

お、とう、さん……？

大輝

なにしてんだ？！親父！

皆で一郎を引き離すも、暴れまわる一郎。

一郎　ズボンを取れと言ったんだ！なぜ誰も持ってこない！

多津子　どうしちゃったの？！お父さん！

紗江　父さん、落ち着いて！

正則　冷静になってください！お義父さん！

一郎　俺に逆らうものは死ね！今すぐここで殺してやる！

そのとき、一輪の薔薇が一郎の首元を突き刺す。

力なく、倒れていく一郎……。

皆、駆け寄って、

多津子　お父さん！

大輝　……なんだ？この薔薇は……？

「威風堂々」がどこからともなく聞こえてくる。  
瞬時に身構えるカゾクマン。

正則　この、曲は……！！

大輝　どこだ？！どこにいる？！

多津子　でてらっしゃい！怪人、男前男！

庭から怪人、男前男登場。そのまま居間へと上がりこむ。

皆　土足。

庭へと引き返す男前男。格好良く一礼して、

男前　ご無沙汰しています。カゾクマンのみなさん。

溶暗……。

同時刻……。

デジビデの映像を見ているミドラーとイーゲン。  
一郎の叫び声。「シャキーン！」という効果音とともに、誰かが倒れる音声が聞こえている。

ミドラー ……何、奴……。

男 (声) ご無沙汰しています。

一郎 (声) ……お前は……?!

男 (声) 一郎さん。時間がありません。早くカゾクマンスーツに着替えてここを脱出するのです！

映像を消すミドラー。

イーゲン ……男前の仕業か……。

ミドラー イーゲン！今すぐ男前男を捕らえ、市中引き回しの上、打ち首獄門に処すのだ！

イーゲンがミドラーをひっぱたく。

イーゲン 何が市中引き回し、何が打ち首獄門だ?!時代は令和だぞ！

ミドラー ぬうう……。

イーゲン いいか?よく聞け。貴様のような古い人間の時代はとうに終わったのだ。

ミドラー ……クーデターでも起こすつもりか?

イーゲン どこまでもバカな女だな。すでに陥落していることにも気づかない裸の女王よ。

ミドラー なんだど?!

イーゲン 貴様は、怪人やジョッカーがいなければ何の役にも立たない。レッドを取り逃がしたのがいい証拠だ。

ミドラー わかったぞ!お前は男前男と手を組み、私を陥れるつもりだな!

イーゲン 勘違いするな。俺があんなキザ男と手を組むわけがなからう。男前がお前に見切りをつけただけのことだ。

ミドラー ではなぜレッドを助ける必要がある?

イーゲン カゾクマンに寝返るつもりなんだろう。男前は貴様より、詩織を選んだのだ！

ミドラー くっ……。

イーゲン 俺様もとづくに、お前には見切りをつけているがな。

ミドラー イーゲン！

イーゲンにゆっくり近づくミドラー。突然、すがって、

ミドラー お願い！捨てないで！

イーゲン （不敵な笑みを浮かべ）……………。

ミドラー 私は確かに古い女よ。それを克服するために、パソコン教室に2年も通い詰めたんじゃないの。

イーゲン 怪人をプログラミングするためにな。

ミドラー そうよ。私のおかげで男前男は復活できた。

イーゲン お前の努力は認めよう。だがな……。

またもミドラーをひっぱたくイーゲン。

イーゲン 貴様の作った男前男は不良品だ！でなければ、カゾクマンに寝返るわけがない！

ミドラー ゲンちゃん！

イーゲン その名前で呼ぶな！

ミドラー いいえ！呼びます！もう一度やり直しましょう。「ゲンちゃん」「ラーちゃん」と呼び合っていたあの頃に。

イーゲン ほざけ！俺が「ラーちゃん」と口にするのは、下北沢の「みんな」に行ったときだけだ！

ミドラー もう一度食べに行きましょう！あの、昔ながらのラーメンと、あの、よくわからない赤みがかったチャーハンを！

イーゲン ……………（ゴクリと唾を飲み込む）。

ミドラー 思い出すわね。ゲンちゃんは食べるのが早くって、私が食べ終わるのを待つ間にいつも眠ってた。みんなの「みんな」は睡眠の「みんな」ね、なんて冗談言って（笑）。

イーゲン 思い出を語るな！煩わしい！

ミドラー　また二人で世界征服の夢を叶えましょう！レッドの腰痛はまだ完治していない。ヤツを改造人間にするのは容易いはずよ！

さらにミドラーをひっぱたくイーゲン。

ミドラー　お願いだから手を出すのだけはやめて！

イーゲン　俺が本気で、お前のようなババアを愛したと思うか？

ミドラー　……なんだと？

イーゲン　すべてはイーゲン帝国を築くために貴様を利用しただけのことだ。

ミドラー　イーゲン帝国だと？

イーゲン　幸い貴様は警察や自衛隊、アメリカ軍にまで命を狙われている。俺や

カゾクマンが手を下すまでもない。

ミドラー　……………。

イーゲン　地獄の底から見ているがいい！このイーゲン様が世界を征服する姿を！

ミドラー　王女のいない帝国で、どう怪人を産み出すというのだ？

イーゲン　……俺様にも考えはある……。

どこからともなく詩織が姿を現す。

詩織に視線を移し、不敵な笑みを浮かべ去っていくイーゲン。

ミドラー　待って！ゲンちゃん！

追いかけるミドラー。

入れ違いに一郎が現れ、詩織の首を絞める。

カゾクたちは必死に止めに入る。

一郎　ズボンを取れと言ったんだ！なぜ誰も持ってこない！

多津子　どうしちゃったの？！お父さん！

紗江　父さん、落ち着いて！

正則　冷静になってください！お義父さん！

一郎　俺に逆らうものは死ね！今すぐここで殺してやる！

そのとき、一輪の薔薇が一郎の首元を突き刺す。  
力なく、倒れていく一郎……。  
皆、駆け寄って、

多津子 お父さん！

大輝 ……なんだ？この薔薇は……？

いつの間にか庭に立っていた男前男。

男前 ご無沙汰しています。カゾクマンのみなさん。

多津子 やったわね！男前男！

男前 多津子さん。安心してください。一郎さんはただ眠っているだけです。

一郎 (いびきをかく)

多津子 ホントだ……。

大輝 俺たちに何の用だ？！

ポケットから、もう一輪のバラを差し出す男前男。

男前 多津子さん。程なく誕生日と伺いました。これを。

多津子 そのバラを、あたしに？

男前 HAPPY BIRTHDAY TATSUKO。

多津子 (受け取ろうと) 何よ、なかなか良い所あるじゃない。

大輝 母さん気をつける！毒が塗られているかもしれない！

男前 塗られているのは毒ではありません。麻酔薬です。

多津子 麻酔薬？！

男前 残念ながら一郎さんの怪人化は進行している。一郎さんが怪人と化

したとき、そのバラを突き刺してください。

紗江 ちよつと待って！怪人になっちゃうの？！父さん！

男前 幸い手術は途中で食い止めました。しかし、一郎さんが完全な怪人に

なるまでに、あと3日……。

紗江 ちようど母さんの誕生日……。

男前 この3日間で、怪人化の進行を止めなければなりません。

多津子 どうすれば止められるの？！

男前 それを知るのは、ミドラー様ただ一人……。  
正則 今すぐミドラーを捕まえましょう。

紗江 そうね。警察が先に見つけたら、ミドラーを殺しちゃうかもしれない。  
大輝 みんな冷静になれ！こいつはミドラーの手下だぞ！何か企んでいる  
かもしれない！

紗江 まあ、そりやそうか……。

大輝 あいつの言うことなんか何一つ信用できない！紗江！正則さん！親  
父をここに晒しておくのは危険だ！どこか別の場所へ！

紗江 了解……。

正則 わかりました……。

紗江と正則は不穏な空気のまま。一郎を抱えて居間を去る。

男前 疑り深いですね、大輝さん。  
大輝 当たり前だ！

男前 確かに私はミドラー様の手下です。しかしもはやそれも過去のこと。  
大輝 なに？

男前 ミドラー一族は今、イーゲンに牛耳られているのです！

大輝 なんだと？！

男前 ミドラー様はイーゲンの虜となっている。DVに気づかない程イー  
ゲンを愛してしまったのです。もはやミドラー一族に未来はありま  
せん。

大輝 だからって、どうしてお前が親父を助ける必要がある？

男前 一郎さんを救いたかったわけではありません。あなた方に私を信用  
してもらおうための手段です。私の本来の目的は（格好良く指を刺し）

詩織さんを守ることにある！

大輝 詩織を、守るだと？！

男前 イーゲンは詩織さんを王女とし、イーゲンとの子を、つまり怪人を産  
ませようとしているのです！

！！

男前 それを食い止めるためには、私とあなた方で手を組む必要がある。

大輝 作り話もいい加減にしろ！

男前 本当です。詩織さんは以前に比べて格段に強くなった。イーゲンは、

そのポテンシャルとDNAを怪人に受け継がせようとしているのです。

大輝

なんだかんだ言って、お前が詩織に近づきたいだけのことだろう！

男前

あなたはどこまで小さい男なんだ！一郎さんは怪人と化し、詩織さんは娶られようとしているんです！色恋の話をしている場合ではない！

大輝

黙れ！

飛びかかる大輝。応戦する男前男。

詩織が男前男をかばうように立ちはだかる。

詩織

待つて！

多津子

詩織ちゃん？！

詩織

男前男の言っていることは辻褄が合ってる。嘘を言ってるとは思えない。

大輝

詩織、どういうことだ……？

詩織

イーゲンは私に向かって「合格だ」って言ったの。

大輝

本当か？それは……。

詩織

(頷いて)戦いの中で、私を試しているようだった……。

大輝

……。

多津子

大輝。今は男前男の言うことを信じましょう。

大輝

こいつを仲間に引き入れるっていうのかよ？

多津子

(男前に)その代わり条件がある。お父さんを必ず、普通の人間に戻してちょうだい。

男前

わかりました。全力を尽くしましょう。

多津子

今だけだから。ね？大輝。

大輝

(納得いかずも戦闘態勢を解き)……わかったよ。

多津子

あと3日って言ったわね？

男前

その通りです。

多津子

あなたが、お父さん治す方法をミドラーから聞き出してくれるの？

男前

残念ながらそれはできません。私の裏切りは、すでにミドラー様に知れています。

多津子

じゃあどうするっていうのよ？

男前  
まずは地球防衛軍で一郎さんの身体を分析してください。私はアジトに潜入し、特効薬の在り処を探ります。

ここへ紗江と正則がヘトヘトで戻ってくる。

大輝  
紗江！正則さん！すぐに親父を地球防衛軍に連れて行ってくれ！親父の身体を分析させるんだ！

正則  
え？今、2階に連れて行った所なんですけど……。

紗江  
ちよつと、人使い荒くない？

大輝  
時間がないんだ！急いでくれ！

紗江  
えー……。

正則  
マジか……。

紗江と正則はまた2階へと去る。

男前男はバラを差し出して、

男前  
多津子さん。これを。

多津子  
（手にし）お父さんが怪人になったら、これで眠らせればいいのね？

男前  
茎の部分には触れないように。強力な麻酔薬が塗られ……。

マッサージチェアに倒れ、すでに眠っている多津子。

男前  
遅かったようですね……。

多津子  
（寝息をたて）……。

男前  
ではアジトに潜入してまいります。

詩織  
待って。私も行く。

大輝  
詩織？

男前  
詩織さん、いけません。あなたを連れて行くにはあまりにも危険すぎる。

詩織  
あなたは貴重な情報源よ。死なせるわけにはいかないわ。しかし……。

男前  
だったら俺が行く。それでいいだろう？

大輝  
……うん。お願い。

詩織

詩織は大輝の靴を取りに玄関へ。

男前 どうやら、私を見る目が変わったようですね。

大輝 バカ言うな。

男前 あなたには女心を見抜く力がないようだ。

大輝 ……………。

詩織戻ってきて、大輝に靴を渡す。

大輝が庭で靴を履くと、

詩織 気をつけて。

大輝・男前 ありがとう。

大輝 勘違いするな。俺に言ったんだ。

詩織 二人よ。二人に言ったの。

男前 (大輝に) ですって。

大輝 ……………。

詩織 二人とも、無事で帰ってきて。

男前 お約束します。女性の期待に応えられない私ではありません。

大輝 ……さっさと案内しろ。

男前 では、いってまいります。

庭を去る男前男、あとを着いて行く大輝。

詩織 ……………。

詩織はマッサージチェアの脇に落ちていたバラを拾い台所へ。  
照明変化。

翌朝。テロップ「残り二日」。

新聞を読んでいる一郎。

その傍らではマッサージチェアに座って背中をほぐしている  
多津子。気持ちよさそうな声を出している。

一郎 ……母さん。

多津子 なあにい？

一郎 朝から、艶かしい声出さないでくれるか。

多津子 しょうがないじゃないの……出ちゃうんだから……。

一郎 ……。

多津子 調子どう？お父さん。

一郎 今の所、何の症状も出てないよ。

多津子 そう。なら良かった。

一郎 特効薬、アジトにはなかつたんだろ？

多津子 諦めないで。すぐに分析結果が出るんだから……。

一郎 ……あのさ、母さん。もし俺が怪人になったら、躊躇なく仕留めてくれよ。カゾクマンとしての役目だと思って……。

多津子 ……。

一郎 最後まで苦労ばかりかけて申し訳ない。うちに嫁がなければ、こんな苦勞せずに済んだかもしれないのに……。

詩織が花瓶にバラを挿し、台所から出てくる。

一郎 でも俺は、母さんがピンクで本当に良かったと思ってる。君がいなか

詩織 ったら、俺はとっくの昔にミドラーにやられていたよ。

……。

一郎 明後日には誕生日だ。覚えてるか？あのとときにした約束。

詩織 ？？

一郎 それももしかしたら果たせないかもしれない。だから少し早いけど、今のうちに言っておくよ。母さん。60歳の誕生日おめでとう。

多津子 (いびきをかいて)

一郎 母さん……。

詩織 なんですか？お義母さんとした約束って。

一郎 あ、いたの？詩織ちゃん。

詩織 すみません。聞くつもりはなかったんですけど……。

一郎 いやいや。別に大した約束じゃないんだよ。

一郎はまた新聞に目を移す。  
詩織はバラを花瓶に挿して、

詩織 お義父さんを怪人になんかささせません。私たちが絶対に死守します。  
一郎 ありがとう。詩織ちゃん。

詩織 お義母さんとした約束も必ず果たしてくださいね。  
一郎 もちろんそのつもりだよ。でも、もし俺が怪人になったら、躊躇なくやってくれよ。詩織ちゃん。

詩織 そのお約束はできません。私にとっても大事なお義父さんですから。  
一郎 そう思ってくれるのはとってもありがたい。でも姿形に惑わされないでほしいんだ。詩織ちゃんの首を絞めたときの俺は、間違いなく人だったんだから。

詩織 そのときは、あのバラで……。  
一郎 それもあと2日だ。あと2日で、俺は……。  
……。

詩織 大丈夫。詩織ちゃんにとどめを刺されるなら、俺は本望だからさ。  
詩織 お義父さん……。

多津子 (いつの間にか起きていて)とどめ刺すなら、あたしが刺しますよ。  
一郎 なんだ。起きてたのか。  
多津子 嫁にやられるのが本望?じゃあなんですかあ?あたしにやられるのは本望じゃないって言うんですかあ?

一郎 そんなこと言っていないだろう。母さんにやられても本望だよ。  
多津子 だったらあたしがとどめ刺しますよ。詩織ちゃんにはできないみたいなんだ。  
一郎 あ、ああ……そうしてくれ。

多津子 そうさせていただけます。じっくり時間かけて、なぶり殺していきま  
すから。

一郎 せめて一瞬にしてくれよ。  
多津子 何が「本望」よ。詩織ちゃんの前だからって格好つけちゃって。  
一郎 格好なんてつけてないよ。

多津子 つけてたわよ!この目ではつきり見たんだから!  
一郎 ……。

多津子 (一郎を真似て)「大丈夫。詩織ちゃんにとどめを刺されるなら俺は

本望だからさ」。眼光キラーン。

ここへ正則がパソコンを手に居間へ。

正則 あ、お義母さん。動画できたんでチェックを……。

多津子 (一郎を真似て)「大丈夫。詩織ちゃんにとどめを刺されるなら俺は本望だからさ」。キラーンキラーン。

一郎 ……。

正則 ……。

ここへパジャマ姿の紗江が、眠気眼でやってくる。

紗江 …… (あくびしながら) おはよう。

多津子 (一郎を真似て)「大丈夫。詩織ちゃんにとどめを刺されるなら俺は本望だからさ」。キラララーン。

紗江 え？何してんの？

多津子 お義父さんの真似よ。

紗江 全然、似てくない？

多津子 それがそっくりなのよ。ねえ？お父さん。

一郎 ……。紗江。ずいぶんと朝寝坊じゃないか。

紗江 しょうがないでしょ。さっきまで働いてたんだから。

多津子 カゾクマンがバイトするのは規則違反なの。

紗江 だからやめるって言いに行ったのよ。そしたら常連さんが来てて、朝

まで付き合わされたの。

多津子 あんたね！ここ何日が勝負なのよ！そんな二日酔いみたいな体調で、菓飲むから大丈夫よ！そんな大声出さないで！頭ガンガンする！

多津子 あんたの方が声大きいじゃないの！

紗江 母さんの方が大きいわよ！

一郎 もうよしなさい。正則くん。動画できたんだろ？

正則 あ、はい。あの、いいですか？お義母さん。

多津子 はいはい。

多津子は動画をチェック。

紗江は菓を、詩織はグラスの水を用意する。

カゾクマンチャンネルの動画音声聞こえる。「こんにちは。母ピンクです。今日はなんと！カゾクマンのテーマソング、『我が世襲戦隊カゾクマン』の振り付けを皆さんに教えたいと思いまーす！それではまず、見本動画から。チエケナウ！」

詩織 (グラスを差し出し) 紗江さん、お水。

紗江 ありがとう。

多津子 ちよつと待って。巻き戻して。

正則 あ、はい。(と巻き戻す)

多津子 全然しわが飛んでないじゃない。ちゃんと照明当てた？当てました。

多津子 やっぱり思い切って買っちゃいましょう。女優ライト。ネットなら1500円とかで売ってるから。

紗江 そんなお金、どっから出るのよ。

多津子 いずれ元取るから、大丈夫よ。

紗江 母さんの動画、せいぜい月2円だよ？元取るまでに何年かかると思ってたんの？

多津子 詩織ちゃんも使えばいいでしょ。(詩織に) ねえ？

詩織 ああ、はい……。

紗江 大体、誰がそんな動画見るのよ。ウチらの振り付けなんて、誰も興味ないって。

多津子 なんなのよ？今日はずいぶん喧嘩売ってくるじゃない？

紗江 もうちよつと真剣に考えようって言ってんの。あたしスナック辞めたのよ？これからどうやって食いつないでいこうっていのの？

多津子 ……わかったわよ！あたしが水着になればいいでしょ！

紗江 誰もそんなこと言ってない。

多津子 そういうことでしょ？水着になればアクセス数だってあがるわよ。

紗江 まるであるとは思えない。

多津子 見てから判断しないよ！今、着替えてくるから！(と寝室へ)

紗江 どっちにしろ女優ライトなんか買わないからね。

多津子 水着になれば、すぐに元取れるわよ。

紗江 やめなって、そんな無駄金。

正則 僕が買いますよ。女優ライト。

紗江 はあ？なに言ってるの。

正則 お義母さんの誕生日も近いことですし……。

紗江 バカじゃないの。最低のプレゼントね。

正則 ……。

多津子 正則くん。気持ちはあるがたいけどプレゼントなんて何にもいらな

いから。それこそ無駄なお金よ。

正則 いや、でも……。

多津子 詩織ちゃんも、「アニバーサリー青山」のホールケーキなんて用意

しなくていいからね。

詩織 あ、はい……。

多津子

お父さんたちもよく聞いて。誕生日プレゼントなんて何にもいらな  
いから。パナソニックの美顔器も、モンデールのヘッドマッサージャ  
ーも、××（韓国アイドル）のチケットも何にもありませんからね。

そう言い残し、多津子は寝室へと去る。

紗江 ……欲しいもの、全部言っていたわね。

一郎 盛大に祝ってほしいんだろう。

正則 ですね……。

一郎 どうなの？予算の方は。

詩織 なんとか切り詰めましたけど、5000円が精一杯でした。

正則 ケーキ買ったら終わっちゃいますね……。

詩織 ××って韓国のアイドルですよ？

紗江 そうそう。今度ファンミーティングがあつてさ、チケット代××円も

するの。

詩織 そっか……。

一郎 だからって何もしなかったら、本当にへそ曲げちゃうぞ、母さん。

紗江 とりあえず、水着はやめさせたら？世間のいい笑ひ者よ。

一郎 そうだな。

と、一郎はラックに新聞を戻し、寝室へ。

紗江は菓を飲みながらスマホに目を移し、正則はパソコンに

向かう。二人、会話なく、微妙な雰囲気……。

詩織 ……あの、あとで大翔の様子見に、地球防衛軍に行こうと思うんです  
けど一緒に行きませんか？

紗江／正則 ……。

詩織 倫太郎くん、学校休みですし……。

紗江 悪いけど二人で行ってくれる。あたしは一眠りしてから顔出すわ。

詩織 わかりました……。

紗江 お兄ちゃんは？なにしてんの？

詩織 昨日の報告をしに、男前男と司令官のところ……。

紗江 あ、そ。(二階へ戻ろうとする)

正則 (ので) 紗江。

紗江 (立ち止まり) ……何よ？

正則 昨日、ママさんから御祝儀もらってるだろ？それ使えば、チケットの  
一枚くらい買えるんじゃないか。

紗江 ……イラつくわあ……ほんとイラつく。そんなこと、あんたに指示さ  
れる筋合いないから。

正則 ……。

紗江 あんたこの2年なにしてきたの？母さんに言われるがまま、大して  
お金にもならない動画撮って編集して、バカバカ食事して一向に瘦  
せる気配もなくなってるよ！

詩織 紗江さん。

紗江 父さんは家計支えるためにずっと体張ってきたの！寝る間も惜しん  
でバイト3つも掛け持ちしてたのよ！

正則 ……。

紗江 そりゃ今はバイト禁止だし、あんたも婿養子だから肩身狭いのはわ  
かるけどさ、男としてさ、倫太郎の父親としてさ、この状況をどうに  
かしらうって気はないわけ？はっきり言って、あんたは婿養子って  
立場に甘えてるだけよ！

そう言い残し、紗江は2階へと去る。

正則 ……ぐうの音も出ないや……。

詩織 私も……刺さりました……。

正則 詩織ちゃんは十分貢献してるじゃない。

詩織 いえ。私もお母さんに言われるがままですから……。

正則 ……………。

詩織 正則さん。昨日からずっと考えていたことがあるんですけど、話して

正しいですか？

正則 もちろん。

詩織 もし、正則さんが嫌だったら、アレなんですけど……。

正則 わかってるよ。もう井でご飯食べるのは、やめにするから。

詩織 そういうことではなくて……。

正則 あ、違うの？じゃあなに？

詩織 ……私、イーゲンと取引しようと思うんです。

正則 取引？

詩織 私が王女になる代わりにミドラーからお父さん治す方法を聞き出し

てほしいって。

正則 ええ？！

詩織 もちろん王女になるつもりはありません。情報を聞き出したあとに、

私を助けてもらえたら……。

正則 囧になるっていうの？

詩織 そうです。

正則 イーゲンは確実に強くなってるよ。その作戦は危険すぎるよ。

詩織 わかってます。大輝さんや司令官が反対することも……だから正則

さんに話してるんです。

正則 僕一人で、詩織ちゃんを助けろって……？

詩織 ダメですか？

正則 ……ダメっていうか……なんていうか……。

詩織 やっぱり嫌ですか？

正則 ……嫌っていうか……なんていうか……。

詩織 (ため息) もういいです。彼に相談してみます。

正則 彼って？

詩織 今の話は誰にもしないでくださいね。

寝室から多津子の「キヤー！」という叫び声が聞こえてくる。

すると、多津子の水着を着た一郎が怪人となって現れる。

一郎 正則！俺の水着姿を撮れ！ユーチューブにアップしろ！

衣服のはだけた多津子が寝室から出てきて、

多津子 正則くん！助けて！お父さんが怪人に！

正則 お義父さん……。

一郎 この姿を、全世界に配信してやる！どけ！

正則を退け、パソコンを打ち込む一郎。

詩織がバラを刺そうとするも、一郎に弾かれ、バラを落としてしまう。

それからまた詩織の首を絞める一郎。

一郎 俺に殺されて本望だろう！詩織！

そこへ帰ってくる大輝、千代、男前男。

千代 一郎ちゃん！

大輝 なにしてんだ？！親父！

大輝が一郎を取り押さえると、男前男がバラを拾い、一郎へ。

一郎が気を失うと、「お父さん！」と駆け寄る多津子。

大輝 なんだよ？この格好……。

詩織 ユーチューブにあげようとしたの。自分の水着姿を……。

大輝 なんて、恐ろしいことを……。

多津子 お千代さん、どうだったの？お父さんの分析結果は？

千代 残念ながら、何の手がかりもなかったわ……。

多津子 お父さん……。

千代 でも大輝と男前男のおかげで新たな情報が得られた。

多津子 新たな情報？

大輝／男前 昨日（さくじつ）、俺たちが（我々が）……。

大輝 黙れ！俺が話す！

男前 私の方が事情には詳しい。

大輝 ……………。

男前 ……………。

大輝／男前 昨日（さくじつ）、俺たちが（我々が）アジトへと潜入…………。

大輝 俺が話すと言っただろう！

男前 私の方が簡潔にお伝えできるのです。

千代 男前男、話さない。

男前 昨日（さくじつ）、私と大輝さんでアジトへと潜入しました。残念な

がら一郎さんの特効薬たるものは見つかりませんでした。一つ、不可思議なことがあった…………。

多津子 不可思議なこと？

男前 ジョッカーが一人も見当たらなかったのです。おそらく、イーゲン体

制となり、嫌気のさしたジョッカーたちは現在、ストを起こしている。

多津子 スト？

男前 ジョッカーには労働組合が存在します。ストを起こす権利が保障さ

れているのです。

大輝 つまり、かなり手薄な状態だ。一斉攻撃を仕掛ければミドラーとイー

ゲンを一挙に仕留められるかもしれない。

詩織 ちよつと待って。ミドラーを仕留めてしまったら、お義父さんは怪人

になるしかないんじゃない…………。

男前 さすが詩織さん。その通りです。つまり方法は2つ…………一郎さんを見

捨てミドラー一族を倒すか、ミドラー様を捉え怪人化を阻止する方

法を聞き出すか…………。

多津子 そんなの、お父さんが優先に決まってるでしょ！

男前 そう仰ると思っていました。しかし、ミドラー様が簡単に口を割ると

は思えません…………。

詩織 そうよね…………。

皆、一郎に視線を落とし、沈黙…………。

多津子 お父さんをこんな姿にして…………絶対に許さない！

千代 いつまた怪人になるかわからない。一郎ちゃんは地球防衛軍に隔離

する。すぐに緊急会議を開きましょう！

皆 ハッ！

千代 男前男。あなたを会議に参加させるわけにはいかないわ。

男前 承知しています。

多津子 大輝。手伝って。

多津子と大輝は一郎を抱え玄関へ。千代もあとを追う。

正則はパソコンを片付けていると、

詩織 男前。ちよつといい。ここじゃないんだから。(と台所の方へ)

男前 ？？なんででしょう？？

正則 ……詩織ちゃん。僕も行く。

三人は台所へ。

上手側の幕が降りる。

テロップ「残り一日」。

下手側にミドラーのアジト。幕にその映像が映る。

大きなワイングラスを手に現れるイーゲン。

イーゲン ……おい！

やってくるミドラー。

ミドラー なあに？

イーゲン 腹が減った。

ミドラー あと10分待って。今、生姜焼き作ってるから。

イーゲン ラーちゃんだ。ラーちゃんが食いたい。

ミドラー そんなわがまま言わないで。もう浸け込んだんだから。

イーゲン 貴様が昨日、ラーちゃんなどと口にするからだろう！

ミドラー ……わかったわよ。出かける準備するからちよつと待ってて。

イーゲン 今から下北沢に行くのは億劫だ。

ミドラー じゃあどうするの？こんな所まで出前なんかしてくれないわよ。

イーゲン 貴様に取りに行けばいい。

ミドラー イヤよ。ラーメンとチャーハン持ちながら小田急線に乗るなんて。

イーゲン 俺様の言うことが聞けないのか？

ミドラー 行くだけで1時間かかるの。ラーメンだって伸びちゃうわよ。ねえ、

近所のラーメンチャーハンじゃダメ？

イーゲン ダメだ。俺はあの赤みがかつたチャーハンと、昔ながらのラーメンに

別盛りのキムチを混ぜ合わせて食いたいのだ！

ミドラー ……よく考えて。私は今、警察や自衛隊に狙われているの。ラーメン

を取りに行つて、命を落とすなんてイヤよ。

イーゲン 俺はそれでも、一向に構わんがな。

ミドラー ……。

イーゲン 貴様が死ねば、俺はラーちゃんの食い終わりで眠らずに済む。

ミドラー ……クックパッドで調べるから。ラーちゃんのレシピを。

そう言い残し、その場を去るミドラー。

イーゲンはワインを飲み干し、不敵に笑みを浮かべる。

下手の幕がおり、上手の幕が上がる。

男前男の運転で移動中の詩織と正則。カゾクマンスーツ。

幕に移動中の景色が映る。

男前 いかがですか？ 一郎さん。

詩織 昨夜もまた、怪人になってたわ……。

男前 そうですか……どうやら確実に進行しているようですね。

正則 (ため息) ……。

男前 しかし、一郎さんは前回の戦いでレッドを引退したはずでは？ なぜ今もレッドを続けているのです？

詩織 腰痛の手術代を労災で賄うためよ。引退したら手術は自腹になるから。

男前 なるほど。手術費用をケチったが故に、ミドラー様にさらわれたと。

正則 あのととき、すぐに手術していれば……。

男前 (後部座席に)後悔してももう遅い。今は前を向いていきましよう。

詩織 男前、前を向いて！

男前 (危うく事故しそうになり) ……失礼。

詩織

あなたこそどうなの？2年前、私をかばって死んだはずでしょ？

男前

確かに私は死に絶えました。しかし、ミドラー様によって新たな命を吹き込まれたのです。男前男のAIとして。

詩織

AI？！

男前

そうです。今の私は怪人でもなければ人間でもない。三度の飯よりも好きだったセックスに、快楽を覚えることができないのです。

詩織

その情報はいらないわ。

男前

でもこれだけは信じてください。詩織さん。あなたへのAIだけは、本物です。

詩織

あなたへのAI？

正則

詩織ちゃん。AIをローマ字読みしてみてください。

詩織

（気づき）バカじゃないの！AIになっても気持ち悪いのは相変わらずね。

男前

その罵声が私をさらに滾らせる……。

詩織

正則さん。何か別の話しましょう。

正則

そうだね。そうしよう。

詩織

どうしましょうね？お義母さんの誕生日。

正則

それなんだけどさ、紗江がもうとくにプレゼント買ってたんだよ。

詩織

紗江さんが？

正則

ファンミーティングのチケットを、ネットで。購入履歴見つけてさ。

詩織

それなら早く言ってくればいいのに……。

正則

きつとサプライズで渡すつもりだったんじゃないかな。

男前

到着しました。

車が止まる。降車する三人……。

詩織

ここは……高島平団地……。

男前

この最上階がミドラー様のアジトです。

正則

以外と、ご近所……。

男前

正則さんはここで待機してください。

正則

待機？

男前

駐禁を取られたら大変です。

正則

そりゃそうだけど……。

男前

まずは私と詩織さんで潜入し、ミドラー様から情報を聞き出したら合図を出します。1時間経つても合図がない場合、車をタイムズに停め、突入してください。

正則

わかった……。

男前

では、参りましょう。

正則を残し、男前男と詩織は去る。

上手の幕が降り、下手から2番目の幕が上がる。

地球防衛軍の独房に、隔離された一郎の姿。幕には独房の様子が映る。

一郎

(何かの覚悟を決め) ……。

上手から2番目の幕が上がる。格子を挟み、千代の姿。

千代

ごめんね、一郎ちゃん。こんなところに隔離して。

一郎

いいんだ。

千代

昨日、作戦会議を開いたの。警察や自衛隊と連携してミドラーを生け捕りにする作戦を政府に提案したわ。あなたの怪人化を食い止めるために……でも……。

一郎

答えはNOだったんだろ？

千代

政府はミドラーを仕留めることしか考えていなかった……。

一郎

それでいいんだよ。政府の判断は間違っていないと思う。

千代

でも、あたしたちは一郎ちゃんを見殺しになんてしないから。今からカゾクマンの皆がアジトに突入する。

一郎

お千代さん。その作戦はすぐに中止してくれ。

千代

一郎ちゃん……。

一郎

そもそも、この歳になるまでミドラーと決着をつけれなかったのは俺の責任だ。俺が怪人やジョツカーを一体も倒せなかったから。

千代

倒せなかったんじゃないやなくて倒さなかったんでしょ？一郎ちゃんは、優しい人だから。

一郎

……親父がヘドラーを倒したとき、俺は見てしまったんだ。父親を殺されて泣いているミドラーを。

幼少期の泣いているミドラーの映像が映る。

一郎 どうしてもあのときのことか頭をよぎってね……俺にはミドラーを仕留めることはできない。でも日本の安全を守るためには、ミドラーを仕留めなくちゃならない……。

千代 その矛盾と、ずっと戦ってきたわけね。

一郎 お千代さん。俺は明日になれば怪人になる。政府の提案を受け入れてほしい。

千代 でも……。

一郎 (土下座して) お千代さんお願いだ！地球防衛軍と警察や自衛隊が手を組めば、必ずミドラーを仕留められる。頼む！お千代さん！決断してくれ！

千代 ……わかった。

一郎 ありがとう、お千代さん。

千代 (涙ぐみ) 例を言うのはこっちの方よ。

一郎 俺のことも、遠慮なくやってくれよ。

千代 うん……なるべく苦しまないようにするからね……。

一郎 頼むよ。

千代 じゃあ、すぐ作戦に取り掛かるわ。(行こうとする)

一郎 待つて。もう一つだけ、お願いがあるんだ。

千代 お願い？

一郎 ……実は、母さんと昔、約束したことがあってさ……。

上手の幕前にセーラー服姿の多津子。誰かを待っている様子。

幕には教室の景色が映る。チャイム。

下手の幕前に学生服を着た一郎がやってくる。

回想……。

多津子 いくくん。

一郎 たっこちゃん……まだいたの？

多津子 だつて心配だったんだもん。いくくんの第2ボタン、誰かに取られるんじゃないかと思って。

一郎 欲しがる人なんて誰もいないよ。

多津子 いるわよ。明日からカゾクマンブルーになる人よ。人気あるんだから。そうじゃなくて。俺とたっこちゃんが付き合ってることは、学校中の人が知ってるんだからさ。

多津子 (嬉しい) ……いっくん。卒業おめでとう。

一郎 ありがとう。

多津子 あと2年待つてね。あたしも卒業したら、ピンクになっていっくんと一緒に戦うから。

一郎 ……そのことなだけでさ……。

多津子 ……？

一郎 やっぱり、たっこちゃんをピンクにするわけにはいかないよ。

多津子 大丈夫よ。もうその覚悟は出来てるんだから。

一郎 覚悟の問題じゃないんだよ。カゾクマンは常に危険と隣り合わせだ。いつ怪人に襲われるかわからない。それにヘドラーは今まで一番の強敵でね、娘のミドラーも小さいながらに力をつけてきてる。私をなめないで。本当に、いつ死んでもいい覚悟は出来てるの。

一郎 そんな覚悟はいららないんだよ！

多津子 ……いっくん……？

一郎 俺はたっこちゃんに長生きしてほしい。本当にそう願ってるんだ。君を危険に晒したくはない……。

多津子 いっくん、まさか……。

一郎 別れてほしい。

多津子 ……！！

一郎 ずっと言おう言おうと思ってたんだけど、なかなか踏ん切りがつかなくて……卒業を期に、たっこちゃんとは別れようと思う。

多津子 (泣きそう) ……イヤだ……。

一郎 俺も別れるのは嫌だけど、本当に辛いけど……こうするしか道はないんだよ。ごめんね。(行こうとする)

多津子 (ので) あたし死なないから！絶対に長生きするから！ヘドラーなんかにはやられない！あたしが倒す！

一郎 無理だよ、そんなの。

多津子 強くなるから！これから柔道部に入る！空手部にも入る！合気道部にも弓道部にも全部の部活に入るから！

一郎 それも無理だよ。

多津子 無理じゃない！あたし絶対に死なない！還暦まで生きる！約束する！

一郎 たっこちゃん……。

多津子 いったくんも死なせない！あたしの還暦と一緒に祝ってもらおうの！お義父さんやお義母さんも、それから生まれてくる子供たちも一緒に、熱海かなんかに旅行に行つて、皆であたしの還暦を盛大に祝つてもらうの！

一郎 ……。

多津子 あたし強くなるから……絶対に死なないから……だから……別れるなんて言わないで……。

一郎 ……ちよつと、考えさせて。

多津子 ……うん……。

多津子は泣きながらその場を去る。

学生服を脱ぎながら、見送る一郎。

回想戻り……。

一郎 ミドラーたちを倒したら特別ボーナスが出るだろ？それでみんなを

熱海旅行に連れて行って欲しいんだ。あいつの還暦祝いを兼ねて。

千代 わかったわ。必ず約束する。

一郎は独房の奥へ、千代も独房を離れていく。

幕が上がる。佐久間家の居間。

カゾクマンスーツを着た大輝と紗江がウロウロ。

大輝 紗江。詩織知らないか？さつきから見当たらないんだ。

紗江 うちの人も見当たらないのよ。全く、どこ行ってんの？こんな大事なときに……。

ふと、座卓にある置き手紙を見つける大輝。

大輝 (読んで) ……?!おい！紗江！

紗江 何よ？

大輝 これ！

紗江 (読んで)……ちよつと待つて！二人して、なに勝手なことしてくれてんのよ！

カゾクマンスーツに着替えた多津子が寝室から出てくる。

大輝 母さん！大変だ！詩織と正則さんがミドラーのアジトへ潜入した！  
多津子 なんですって？！

大輝 すぐに現場へ急行だ！

三人、駆け足で玄関へ。

照明変化。

ミドラーのアジト。

下手からイーゲンとミドラー、上手から男前男と詩織が登場。

ミドラー 男前男……よくぞノコノコと顔を出せたものだな。

男前 ミドラー様、あなたに用はありません。

ミドラー なんだと？

男前 私の行動の全ては……イーゲン、お前の要望を叶えるためにしたことだ。

イーゲン どういう意味だ？

男前 私がレットを救ったのは、カゾクマンに私を信用させたまでのこと……詩織さんをお前に差し出すためにな。

イーゲン ほう……。

男前 詩織さんは、ある条件を飲めば、お前の妻になるそうだ。

イーゲン その条件とやらを聞かせてもらおう。

男前 詩織さん。

詩織 ……お義父さんの、怪人化を止める方法を教えて。

イーゲン 残念ながら、その術を知るのは俺様ではない。(とミドラーを見る)  
ミドラー そんなこと、私が教えるはずないじゃない。

イーゲン (ミドラーを追い詰め)

ミドラー だってそうでしょ！教えてしまったら、あなたは詩織を娶って、イー

ゲン帝国を築く……私は用無しよ……。

イーゲン  
（ミドラーを追い詰める）

ミドラー  
また殴る気？もう暴力はよして！なんでもする！今からラーちゃん  
を取りに行きますから！

イーゲンよせ。女性に暴力を振るうのは……。

イーゲンは男前男に一撃喰らわせると、ボコボコに。

イーゲン  
男前よ！俺様がそんな都合のいい話を信用するとも思ったか？！

男前  
……な、に？

イーゲン  
何を企んでいるのかは知らんが、貴様が詩織を連れてきたのは好都合だ。もうお前に用はない……。

男前  
（動けず）……イーゲン……。

イーゲン  
イーゲン帝国に男前は俺一人で十分だ！死ね！

詩織、イーゲンをひっぱたく。

イーゲン  
……結構痛かったぞ。詩織！

詩織  
男前は死なせない。今度は私が守る番よ！

男前  
やめたほうがいい……あなたが敵う相手ではない……。

詩織  
私を娶るつもりなら、イーゲンは私を殺せない。

ミドラー  
あんたなんか娶るわけないでしょ！ゲンちゃん！やつちやって！

イーゲン  
……詩織……俺様に手を出すとは、王女失格だ！

イーゲンが手を振り上げたところで、

男前  
ミドラー！今だ！

ミドラーが稲妻をイーゲンに落とす。

気を失うイーゲン……。

詩織

?!

笑いながら、平然と起き上がる男前男。

男前 詩織。お前がすんなり私を信用してくれたおかげで、全てがうまくいったよ。

詩織 男前……???

男前 イーゲンは力をつけすぎた。ミドラーの、手に負えないほどにな。

気を失っているイーゲンの腹にとどめを刺す男前男。

ミドラー イーゲン。貴様に帝国を築かせるわけがなからう。惚れたフリだとも気付かずに……愚かな男よ。

詩織 ……一体、どういうこと……?

男前 我々の目的はな詩織。お前を差し出し、油断した隙にイーゲンの命を奪うことにあつたのだよ。

詩織 私を利用したってわけね……。

男前 利用？貴様の方からだぞ。「イーゲンの囷になる」と言ったのは……。あんたたちの目的は達成されたんでしょ？早くお義父さん治す方法を教えなさいよ！

ミドラー そんなに知りたければ冥土の土産に教えてやろう……。モロヘイヤだ！モロヘイヤとリンゴ酢を混ぜ合わせ、グラス一杯飲ませろ！

詩織 ……それだけ？

ミドラー モロヘイヤの力をなめるではない。

男前 相変わず、優しい娘だ。

詩織 娘……???

ミドラー 詩織！貴様はイーゲンとともに地獄の底で帝国でも築くがよい！

詩織にイナズマを落とそうとするミドラーと男前男。  
そこへ「待てい！」などとカゾクマンがやってくる。  
即座に詩織を人質にとる男前。

男前 正則。まだ1時間経っていないぞ。

正則 お前こそ、詩織ちゃんに何をする気だ？！

多津子 騙したわね！男前！

ミドラー 残念ながら、この男は男前男ではない……2年前、息絶えた男前男の肉体を利用し、私がプログラミングした新たな怪人だ！

大輝 なんだと？！

ミドラー 紹介しよう！我が一族の父、ヘドラー総帥だ！

雷鳴、フラッシュ。

この間、男前男はヘドラーへと変貌する。

多津子 その姿は……まさしくヘドラー！！

ヘドラー 驚いたよ。貴様がまだピンクを続けているとはな……そうせざるを得ないほど、先代カゾクマンよりも力が衰えているのだろう。今すぐ貴様らを仕留めるなど容易いことだ。

大輝 言わせておけば！

ヘドラー しかし、私はDSでね、一郎が怪人になりゆく様を貴様らに味わってほしいのだよ。そのあとゆっくり決着をつけようではないか。

ミドラー さすがお父ちゃん。

ヘドラー 行くぞ。

ヘドラーは詩織を人質に取ったまま、歩を進める。

ヘドラー だけ。詩織が殺されてもいいのか？

仕方なく退くカゾクマン。

詩織は口を動かし、何かをアピールしている。

紗江 え？なに？

ミドラー 明日が楽しみだな！カゾクマン！（高笑い）

詩織を連れ去っていくミドラーとヘドラー。

紗江 ……なんか言ってたわよね？詩織さん。

正則 うん、モロなんとかって……。

大輝 とにかく今は、後を追うぞ。

追いかけてようとするカゾクマン。  
その大輝の足をつかむイーゲン。ずるずると起き上がる。

皆  
!!

大輝はイーゲンを突き放す。イーゲンはフラフラ。

大輝 イーゲン！覚悟！

イーゲン 待、て……。

大輝 ……………。

イーゲン ミドラーは……俺が殺す……。

大輝 ？？

イーゲン ヘドラーもろとも、俺が仕留める……。

前のめりに倒れ込むイーゲン。  
溶暗……。

地球防衛軍の独房。

テロップ「残り15分」。

雨空を眺めながら物思いにふけっっている一郎。

一郎  
……………。

そこへ多津子がやってくる。

一郎  
母さん……こんなところに来てる場合じゃないだろう。

多津子  
大丈夫。今、大輝たちがミドラーを追ってるから。

一郎  
すぐに現場に戻るんだ。母さんたちでミドラーを仕留めてくれ。

多津子  
まだ15分ある。最後までお父さんのことは諦めない。

一郎  
あと15分しかないんだ。もう俺のことは諦めてくれ。

多津子  
お父さん……。

一郎  
お千代さんから聞いたよ、ヘドラーこと。母さんは今ここにいないべきじゃない……。

多津子  
イヤだ！絶対にお父さんと、還暦を迎えるんだから！

一郎  
その時には、怪人になってるかもしれないぞ。

多津子  
それでも構わない。怪人になったとしてもお父さんはお父さんだから。わかってるでしょ？あたしの性格。お父さんの傍からは、絶対に離れませんからね。

一郎  
……ありがとう。母さん。

多津子  
あたしが好きでここにいるの。お礼なんか言わないで。

一郎  
そうじゃないよ。今までのことさ。母さんと出会ったときから、今までのことを言ってるんだ。

多津子  
……………。

一郎  
大輝と紗江を産んでくれて、立派に育ててくれて本当に感謝してる。その大輝が詩織ちゃんを連れ、大翔を産んでくれた。紗江も正則くん  
と倫太郎を産んでくれてさ。あのとき母さんと別れていたら、この家族にはめぐり合えなかったわけだから。  
お父さん……。

多津子

少し間。

一郎 ……そう考えると、ミドラーは可哀想だよな。

多津子 ミドラーが？

一郎 親父がヘドラーを仕留めてから彼女はずっと一人だったわけだから。そりゃそうだけど……。

一郎 イーゲンにも裏切られ、ますます孤独になったんだろう。だからパソコン教室に通いつめて、ヘドラーを作り上げた。

多津子 世界征服ためにね。

一郎 それだけとはどうしても思えないんだよ。考えれば考えるほど、ミドラーは家族が欲しかったんじゃないかなあって……。

多津子 敵に同情してどうするの？お父さんを怪人にしようとしてる女なのよ。

一郎 まあ、そうなんだけどさ。

多津子 (時計を確認し)あと12分。何か別の話しましょう。

一郎 あのさ、わがまま言ってもいいかな？

多津子 いいわよ。何でも言つて。

一郎 家に帰りたいたい。最後のときは、家で迎えたい。

多津子 最後なんて言わないで。大輝たちが何とかしてくれるんだから。

一郎 でもあと12分しかない。頼むよ、母さん。急げば何とか家には間に合う。

多津子 ……お千代さんに頼んでみる。

独房を出て行く多津子。

幕が上がり、照明変化。

街中。降りしきる雨の中を歩くミドラー。

その姿を見つめ、一郎は去る。

ミドラー お父ちゃん、こっち。

ヘドラーが詩織を連れ登場。軒下へと身を移す三人。

ミドラー 酷くなってきたわね、雨。

ヘドラー そうだな。

ミドラー　ここで待ってて。今、コンビニで傘買って来るから。  
ヘドラー　ミドラー。ここを動かすな。

ミドラー　どうして？しばらく止む気配ないわよ。  
ヘドラー　いいから。ここを動くのではない。

ミドラー　ダメよ。お父ちゃんの身体はね、濡れたら大変なことになっちゃうのよ。

ヘドラー　そうではない。私の赤外線カメラが、奴らの姿を捉えている……。

ミドラー　!!!

ヘドラー　出てこい！カゾクマン！

大輝、紗江、正則が物陰から出てくる。  
身構えるミドラー。

ヘドラー　いいのか？程なく貴様たちの父親は怪人になるのだぞ？

大輝　それを食い止めに来たんだ！

ヘドラー　どうやって？

大輝　こうなったら、力づくで！

ミドラー　笑わせるな！

大輝、紗江、正則にイナズマを落とすミドラー。

ミドラー　貴様たちが我々に敵うはずがなからう。

ヘドラー　お仕置きだ。

詩織の腹にパンチを入れるヘドラー。

大輝　詩織！

詩織　大輝さん！手を出しちゃダメ！またイナズマを落とされる！

大輝　……くっ！

ヘドラー　手を出してもいいんだぞ、ブルー。

また詩織の腹にパンチ。

大輝 詩織ー！！

詩織 お腹に……モロに……（攻撃し）ヘイ！ヤー！

ヘドラー （交わす）今度は貴様が抗うつもりか。いいだろう。（詩織に腹パン）

大輝 もう我慢ならん！

詩織 動かないで！私の言うことを聞いて！（ヘドラーに）さあ来なさい！

ヘドラー いい表情だ。私のドS心をくすぐるぞ。（腹にパンチ）

詩織 ……また、モロに……（攻撃）ヘイ！ヤー！

ヘドラー （交わす）弱い。弱いぞ！ピンク！（腹パン）

詩織 また、モロ……（攻撃）ヘイ！ヤー！

ヘドラー （交わす）苦しめ！苦しむ表情をもっと見せろ！（腹パン）

大輝 詩織！避ける！なぜ避けない！

詩織 モロ……ヘイヤー！（攻撃）

ヘドラー （交わして攻撃）

詩織 モロ、ヘイヤー……。（フラフラ）

大輝 もうやめる！十分だろ！

詩織 大輝さん……あたしもうダメかもしれないから……遺言だと思って

聞いて……。

大輝 詩織……。

詩織 冷蔵庫に、賞味期限の切れそうなリンゴ酢が入ってる、それを混ぜ合

わせて飲んで……。

大輝 なに言ってるんだ？詩織……。

ミドラー ずいぶんと大層な遺言だな。

ヘドラー お前たち。そこから一步も動くでないぞ。動いたら詩織の命はないと

思え！

ミドラー お父ちゃん。早く傘を買いに行きましょう。

ヘドラー そうだな。

詩織を連れ、去っていくミドラーとヘドラー。

大輝は時間を確認し、

大輝 （ヤケになり）あと1分だぞ！一体どうしろって言うんだ！

紗江 詩織さん、ずっと「モロヘイヤー」って言ってなかった？

正則 確かに。僕も気になった……。

大輝 モロヘイヤ？

紗江 しかも遺言でリンゴ酢のこと言うなんてさ、おかしいと思わない？

正則 しかも、混ぜ合わせるだなんて……。

紗江 (ハツとして) ……もしかして……もしかしちゃうわけ……？

正則 (ハツとして) ……まさか……。

紗江 でも、それしか考えられないよね……？

正則 そうかもしれないけど……。

大輝 何だよ?! どういうことだよ?!

紗江 とにかく、おばちゃんに報告してみよう!

紗江は携帯で千代に電話。

大輝 何の話だよ! 聞かせろよ!

正則 モロヘイヤなんてウチにあった?

紗江 ある! 母さんがスムージーにしてるから!

大輝 ちよつと待て! 一体どういうことだよ?!

紗江は電話をしながらミドラーたちを追いかける。

そのあとを追う正則と大輝。

照明変化。佐久間家の居間。

一郎を連れ、帰ってくる多津子。

その後ろから、グリーンのスーツを着た千代が入ってくる。

多津子 よかったわ。間に合ったみたいね。

一郎 あと、何分?

多津子 1分前よ。

千代 (光線銃を見せ) 一郎ちゃん。悪いけど、怪人になったらこれで仕留めるからね。

一郎 もちろんだよ。遠慮なくやってくれ。

一郎はまじまじと家内を見つめ……。

一郎 やっぱりウチはいいな。たった1日外泊しただけなのに、もう家が恋

しくなっていた。

多津子 旅行なんて、一度も行けなかったもんね。

一郎 この戦いが終わったら、地球防衛軍が熱海に連れてってくれるって。

多津子 本当？

千代 もちろん。決着がついたらね。

多津子 そのときは、お父さんも一緒よ。

一郎 ……だといいな。

多津子 絶対に。お父さんも一緒。

一郎 ……あと何秒？

多津子 20秒。

千代 やめましょう。怪人へのカウントダウンなんて。

一郎 違うよ、お千代さん。母さんの、誕生日までのカウントダウンさ。

千代 そっか……そうよね……。

多津子 10秒前。9、8、7、6、5、4、3、2、1……。

光線銃を構える千代。

静かな時間が流れる……。

多津子 ……どう？お父さん。

一郎 大丈夫だよ。何の症状もない。

多津子 (安堵し) そう。

一郎 母さん。60歳の誕生日おめ……おめ……。

多津子 お父さん？！

一郎 おめ……おめ……おめえの母ちゃんデベソ！

一郎が多津子を襲う！

千代が光線銃を撃とうとしたとき、それを阻む多津子。

放たれた光線銃が一郎の足に命中。

多津子 待って！お千代さん！

千代 覚悟を決めて！一郎ちゃんは怪人になってしまったのよ！

多津子 あたしがなんとかするから！

そう言う和多津子はバラで一郎をひと突き。  
それにはもろともせず多津子の首を絞める一郎。

一郎 死ね！ピンク！

千代の光線銃が一郎の腕に命中。多津子を離す一郎。  
苦しそうな多津子を尻目に千代が光線銃を構える。

千代 一郎ちゃん！覚悟！

千代の携帯が鳴る。千代はそれに出て、

千代 ちよつと待って！あとでかけ直す！……なんですって？！

と千代は一目散に台所へ。

一郎は足を引きずり、腕を押さえながら多津子へと近づく。

一郎 ……殺す……殺してやる……。

多津子 (後ずさり) お父さん！戻ってきてよ！お願いだから！

一郎 ……たっこ……俺を……殺すんだ……。

多津子 お父さん……？？

一郎 君にやられるなら……俺は本望……なわけないだろう！

多津子 お父さん！戻ってきてよ！お願いだから！

一郎 ……たっこ……やるんだ……もう、時間がない……。

多津子は泣きながら光線銃を構える。

一郎 そうだ……それでいい……わけないだろう！

多津子 お父さん！お父さん！

一郎 撃て！撃つな！撃つんだ！撃つな！撃つてくれ！撃つんじゃない！  
撃たないと俺はたっこを！貴様を！殺す！

多津子 ……お父さん……ごめんね……。

多津子が引き金を引こうとすると、ミキサーを持った千代が  
台所から出てくる。

千代 多津子さん！待って！

その場でミキサーを回し、一郎にドリンクを飲ませる千代。  
一郎の怪人化が解けてゆく……。

一郎 うまい！これどうやって作るの？お千代さん。

多津子 お父さん！！（一郎に抱きつき）

一郎 痛い！痛いよ！痛いってば！母さん！

多津子 （号泣）

千代 （電話して）司令官より本部へ。司令官より本部へ。レッドの怪人化  
は阻止した！今すぐ高島平団地周辺に急行せよ！

幕が降りる。

地球防衛軍の戦闘機が夜空へと飛び立つ映像。

幕が上がると雨宿りしているヘドラーと詩織。

そこへ傘を2本手にしたミドラーがやってくる。

ミドラー お父ちゃんお待たせ。（傘を1本渡す）

ヘドラー （受け取って）では、参ろう。

ミドラー どこへ？今、うちに帰るのは危険よ。

ヘドラー アバホテルだ。先ほどネットで予約しておいた。ツインルームをな。

（と詩織を見る）

ミドラー さすがお父ちゃん。（同じく詩織を見る）

ヘドラー もう貴様に用はない。

詩織 ……。

追い詰められる詩織。

そこへやってくる大輝、紗江、正則。

紗江 そうはさせないわ！

大輝 詩織、安心しろ！君のおかげで親父の怪人化は阻止できた！  
ミドラー なに？！

紗江 まさかモロヘイヤとリンゴ酢だったとはね！

詩織 お義父さん……よかった……。

大輝 この場でお前らを仕留めてやる！

ミドラー させるか！馬鹿者！

またも三人にイナズマを落とすミドラー。

ヘドラー 詩織。今度はお仕置きでは済まんぞ。

詩織 ………。

大輝 しお、り……。

ヘドラー 一発だ。一発でお前の息の根を止めてやる。

ヘドラーが詩織を仕留めとしようとしたそのとき、イーゲンが飛び込んでヘドラーに一撃！

ミドラー イーゲン？！

その隙にカゾクマンの元へと逃げる詩織。

ヘドラー 貴様……生きていたのか……？

イーゲン (手負いだが)あの程度でやられる俺様だと思ったか……全員だ！

ここにいる全員、俺様の手で八つ裂きにしてやる！

ヘドラー いいだろう。貴様の相手は私が勤める。

ミドラー お父ちゃん？

ヘドラー ミドラー！お前は今すぐ巨大化し、東京を壊滅させるのだ！

ミドラー でも……。

ヘドラー 安心しろ。手負いのイーゲンにやられる私ではない。

ミドラー ……わかったわ！絶対に生きて帰ってきてね！

ミドラーはその場を去ると睨み合うヘドラーとイーゲン。

紗江

……なんか、めっちゃないがしろにされてない？うちら。

正則

お義兄さん。紗江。すぐにカゾクマンロボを発動し、ミドラーを食い止めてください。ヘドラーとイーゲンの相手は僕が勤めます。

大輝

しかし……。

正則

紗江の言う通り、僕は婿養子って立場に甘えてるだけだった。男として、倫太郎の父親として、この状況をなんとかしたいんだ。

詩織

だったら私も残る。

大輝

詩織はダメだ。(怪我している) 戦える体じゃない。

詩織

大丈夫。(と皆に耳打ち)

イーゲン

長い家族会議だな。

ヘドラー

待っているこっちの身にもなれ。

大輝

(耳打ちを終え) なに？！

詩織

そういうことだから、私を信用して。

大輝

わかったよ。じゃあ正則さん、詩織のこと宜しくお願いします。

正則

はい。紗江。絶対に、男を見せるからね！

紗江

(そっけなく) ん。

去っていく大輝と紗江。

ヘドラー

ようやく、出揃ったようだな。

イーゲン

貴様らの思惑通りにさせない……イーゲン帝国は必ずや築く！

ヘドラー

その野望とともに、亡き者にしてくれるわ！

正則詩織VSイーゲンVSヘドラーの3WEYバトル。

怪我している詩織は足手まといに。

詩織

ごめん、正則さん……。

正則

詩織ちゃん、無理しないで！

詩織は早くも戦線離脱。

結託し、裏切り合うなど複雑なバトル。

正則 汚いぞ！イーゲン！

イーゲン バカめ！最初に死ぬのは貴様だ！

詩織 (子守唄)

その隙にイーゲンに一撃を喰らわせるヘドラー。

手負いのイーゲン、体力のない正則が徐々に劣勢となり、

ヘドラー 貴様らなど束になっても俺様に敵うはずはない！お遊びは終わりだ！

2本の傘を手に正則とイーゲンを突き刺そうとするヘドラー。  
強い雨音とともに、ヘドラーの腕が動かなくなる。

詩織 やっぱり！ヘドラーには防水加工が施されていない！正則さん！今よ！

正則 ミュージックスタート！

「グリーングリーン」の曲とともに正則の必殺技。

しかし、トドメのパンチを食い止めるイーゲンとヘドラー。

正則 ……なにい？！

詩織 正則さん！逃げて！

ヘドラー ……イーゲン、死ね！

イーゲン ……させるか！

互いに傘を突き刺すイーゲンとヘドラー。

二人、息絶える……。

正則 ……え？勝った？……やっつけたの……？(二人の息を確認し)あつ

……なんかわかんないけど、やっつけちゃった！

男を……見せたわね……正則さん。

正則 (何かに気づき)あつ、あれは！ミドラーが巨大化していく！

幕が降りると、町並みの風景。  
巨大化したミドラーが現れる。

ミドラー おのれ婿グリーン……こうなったら町中を火の海にしてくれるわ！

炎を吐くミドラー。町並みが火の海と化す。

そこへ地球防衛軍のヘリや戦闘機がミドラーに襲いかかる。

ミドラー 目障りだ！地球防衛軍！

怒りに満ちたミドラーは戦闘機をばったばったとなぎ倒す。  
地球防衛軍はまるで歯が立たない。

ミドラー さあ！さっさとカゾクマンロボを発動させろ！最終決戦だ！

幕が上がると、ミドラーの戦いを見ていた様子のカゾクマン。

多津子 つ、強い……！！

一郎 さあみんな！カゾクマンロボの発動だ！

紗江 ちよつと待って！父さん、その身体で乗り込むつもり？

一郎 ああ。

紗江 ……わかったわ。じゃあトルネードアタックはあたしがやる！

一郎 (聞いてない) みんな配置につけ！

紗江以外 おう！

紗江以外のカゾクマンは座卓を囲い、配置につく。

紗江 父さん無理しないで！あたしやるから！

一郎 テーブル、トルネードアタック！

他3人 アタック！（座卓を回し、奥の廊下へ）

紗江 あたしにやらせて！あたしこれ、好きなの！

一郎 (聞いてない) ダイニングテーブル、シャイニング！

他3人 シャイニング！（テーブルを回し、奥の廊下へ）

紗江　むしろやりたいの！やらせてってば！

一郎　（トイレからスッポンを取り出し）スッポン、シェアリング！

多津子　（受け取って）スッポン！

千代　（同じく）スッポン！

大輝　（同じく）スッポン！

紗江　（不機嫌）……スッポン。

一郎　（最後のスッポンを掲げ）スッポン！イテテテ……。

幕が降り、カゾクマンロボが発動する映像。

それから町並みの風景に巨大化したミドラーの姿。

ミドラー　カゾクマン！この長きに渡る戦いに終りを告げる時が来たようだな！

幕が少し開くと、操縦席の5人が見えてくる（スッポンで操縦）。

多津子　望むところよ！

一郎　大輝！紗江！急げ！

大輝　紗江！呼吸を合わせるんだ！

紗江　OK！行くわよ！せーの！

大輝／紗江　イチニ、イチニ、イチニ、イチニ……。

大輝と紗江はスッポンを前後に動かす。

下手の幕が上がると、「イチニ」「イチニ」の呼吸に合わせて、

カゾクマンロボが登場する。

ミドラー　出たな！カゾクマンロボ！

千代　まずはこれでも喰らいなさい！アンビリーバブル！

一郎　待ってくれ、お千代さん！今日はミドラーと話をさせて欲しい。

千代　話ですって？！

一郎　いいだろう？母さん。

多津子　お父さんなら、きっと言うと思ってたわ……。

一郎　ミドラー！

ミドラー　なんだ？

一郎　君はなぜヘドラーを蘇らせた？ヘドラーの手の内なら俺たちは知り尽くしてる。ヘドラーよりも強い怪人を今の君ならプログラミングできたはずだ。

ミドラー　……………。

一郎　寂しかったんだよな？家族が恋しかったんだよな？

ミドラー　……………うるさい！黙れ！

一郎　40年前、君は家族を失った。いや、俺たちカゾクマンが奪ってしまった。そのことは本当に申し訳ないと思ってる。この通りだ。

一郎と多津子がロボを操縦。ロボが頭を下げる。

ミドラー　頭を下げたところで、貴様たちを許すわけがないだろう！

一郎　確かに俺たちは許されないことをした。でもなミドラー。君が今、俺たちを仕留めたところで今度は地球防衛軍が君の命を狙う。この戦争は永遠に続いてしまうんだ。

ミドラー　望むところだ！戦え！戦うのだ！カゾクマン！

一郎　人間にとって一番辛いのは孤独だって俺は思う。孤独になればなるほど、自分の命の重さがわからなくなるもんだ。ミドラー。君の命はな、途轍もなく重いんだぞ。家族や仲間がいれば、君ももっと実感できるはずだ。

ミドラー　……………う、うるさい黙れ！黙れと言っておるのがわからんのか！

一郎　黙らないよ。俺たちは君に手を出さない。孤独な思いももうさせない。

ミドラー　なに？

一郎　友達になろう。

ミドラー　はあ？

一郎　友達になろう。ミドラー。

ミドラー　なにを言っている？

一郎　いきなり友達するのは難しいかもしれないが幸い俺たちには沢山の思い出がある。戦った思い出ばかりだけどな（笑）。そんな昔話を肴に今度一杯やろう。

ミドラー　レッド……………。

一郎　もうレッドと呼ぶのはよせ。一郎でいい。俺も、ミドラーと呼ぶのは

やめにするから。

多津子

ミドちゃんと呼びづらいから、ドラちゃんなんてどう？

一郎

ああ、いいかもしれないな、ドラちゃん。

多津子

猫っぽくて可愛いでしょ？ミドラー、確か猫派だったもんね？

ミドラー

と、も、だ、ち……。

多津子

そう。友達になりましたよ。あたしたちももう年をとった。更年期だ  
って辛いでしょ？

ミドラー

そうだな……。

多津子

今度うちにいらっしやいよ。お茶でも飲みながら更年期について語  
り合いましょう。

一郎が操縦し、ロボが右手を差し出す。

一郎

ミドラー。もう終わりにしよう。こんな不毛な争いは。

ミドラー

……………。

ミドラーが逡巡しながら手を差し出そうとした、そのとき、

大輝

おい、あれ……。

千代

あれは！アメリカ軍の戦闘機！

一郎

やめろ！やめてくれ！俺たちはもう和解したんだ！

紗江

ダメよ！日本語が通じない！

戦闘機の轟音。カットアウト。無音の中、戦闘機がミサイルを  
発射。それがミドラーに命中する。

ミドラー

！！

皆

！！

倒れ行くミドラー焦るカゾクマン駆け寄るロボがスローモ

ーションに。

溶暗……。

数日後……。

「ミドラー」と大きく掘られた墓石。

その前に立つカゾクマン。

皆、沈黙……。

詩織 ……良かったのかな？喪服じゃなくて。

大輝 ミドラーを弔うなら、これでいいんじゃないか。

詩織 そっか。そうよね。

一郎 ミドラー。必ず一杯やろうな。俺がそっちに行ったら。

多津子 あと40年待ってね。お父さんには100歳以上は生きてもらおうか  
ら。

大輝 ……俺が、ミドラーに礼することがあるとするなら……君が詩織を  
何度もさらったおかげで、俺はいくらか強くなれたよ。

詩織 私も。あなたのおかげで強くなれたわ。

紗江 意外と、面白いおばちゃんだったわよ。ミドラー。

正則 君がいたから僕は憧れのカゾクマンになれたんだよ。本当に、お疲れ  
さま。

一郎 ……さあ。帰って母さんの誕生日パーティーをやろう。

大輝 だな。結局なにもできなかったし。

多津子 なに？なに買ってくれたの？結局。

一郎 母さんが何も買わなくていいっていうから、本当に何も買ってない  
よ。

多津子 そんなこと言いながら、サプライズで用意してくれてるんでしょ？

ね？詩織ちゃん。

詩織 あ、いえ。ケーキ買うのが精一杯で……プレゼントは本当に……。

多津子 嘘でしょ？！

一郎 今日は待ってくれよ。特別ボーナスが出たら、ちゃんと買うからさ。

多津子 えー。

正則 お母さん大丈夫です。紗江がサプライズ用意してくれてますから。

多津子 ええ！なに？！なに？！

紗江 え？

正則 だよ？

紗江 は？そんなの用意してないけど。

正則 ファンミーティングのチケット。購入履歴見たんだけど。

紗江 あれは……あたしのよ。

正則 紗江の？

紗江 母さんの影響でさ、あたしも××（韓国アイドル）のファンになっちゃったの。

正則 ええ？！

紗江 夜な夜な電話してたのは、お客さんにイベント会社の人が出てチケットをお願いしてたのよ。だから浮気なんかじゃないからね。浮気なんてするはずないでしょ！

正則 そっか……そっか……（と泣く）

紗江 ちよつと。泣かないでよ、こんなところで。

多津子 そうよ。泣きたいのはこつちなんだからね。還暦の祝いにプレゼントがなーんにもないんだから！

なぜか笑顔のカゾクマン。

エンディングテーマが流れる。

上手の幕が下がり、歌詞が映し出される。

## 歌

家族には 言えない 悩みがある

家族には 言えない 隠し事がある

父レッドがこつそり見ています ユーチューブで際どい水着を

母ピンクは狙いをすましてる ファンミーティングのチケットを

兄ブルーの多額の借金 ピンサロ通いがやめられない

嫁ピンクがひらすら隠す タンスにへそくり300万

婿グリーンが涙したわけは 紗江の嘘を確信したから

妹イエローの息子倫太郎は 正則の子供じゃないのよね

ああ バレてしまうのが恐ろしい

ああ 怖くて今夜も眠れない

ああ 世襲戦隊カゾクマン

ああ 世襲戦隊カゾクマン

